

家庭教育力の強化を図る

家庭・学校・地域をつなぐPTA活動

—次世代に向けて新しいPTAの在り方を考える—

瀬戸市立下品野小学校PTA

1 はじめに

本校は、在籍児童411人（うち外国籍児童24人）、PTA会員316世帯の中規模校である。瀬戸市北部に位置し、学校周辺には古くから窯業を生業とする家が点在し、学制発布後まもなく開設された伝統ある学校である。PTAも戦後すぐに家庭教育と社会教育をつなぐ役割を果たすべく発足した。

現在は、地元生まれ育った世帯が住む地区と他地区からの転居が進む新しい分譲地、外国人世帯が多く住む中層住宅等が混在する。国道248号線沿いから蛇が洞浄水場や岩屋堂などの山あいまで学区が広く、通学に1時間近くかかる児童も多くいる。



【下品野小学校全景】

2 研究への取組

(1) 研究の方針

家庭教育力の強化を図るには、PTAの実態を客観的に捉え、今日的な問題を探ることから始める必要がある。その中で考えたことは以下の二つである。まず、形骸化した組織や活動のスリム化を図ること。次に、多様性を受け入れ、PTA会員それぞれが自覚と責任をもって参加できるよう活動内容を見直すこと。コロナ感染症拡大防止のため、今年度は活動が大幅に制限されるので、逆にその機会を利用して組織や規模、活動内容や方法について考えることとした。

(2) PTA組織とその役割

① 組織

総会	- -	常任委員会	〔会長・副会長(3:母代を含む)・常任委員10〕
		全委員会	〔常任委員・学年委員14・町内委員31〕
		専門部会	- - - 広報部 厚生部 安全部

② 任期 常任委員 2年(今まで男性役員は3年の縛りがあったが廃止)
学年委員・町内委員 1年

③ 役割 常任委員……月1回程度会合 活動の企画・運営
学年委員……各専門部に所属して活動
町内委員……各専門部に所属して活動

3 これまでの実践活動の概要と見直し

(1) 家庭とともに行う活動

① ふれあい子育て交流会

例年、講師を招いて講習会を行う。毎回、子育てについて学び、新しく気づくことができる。講習会後には、家庭内の問題や悩みの解消を狙いとして食事会を行って、交流を図り情報を交換している。



【3密回避の常任委員会】

これ以外に秋に文化講座やビーチバレーボール大会を実施していたが、参加者が少なく役員の負担ばかりが際立つ状態であったため、今後はこれらの活動を一本化し、内容を充実させていきたい。

来年度は、本校職員ゆかりの瀬戸出身の車いすの学生とその父親に家庭教育について語っていただき、グループワークで家庭教育のあり方について意見交換を行う予定である。さらに、パラリンピックが開催されることに合わせ、ボッチャや車いすバスケットなどを紹介しながら、子どもたちとも話す機会を設け、家庭で共通の話題にできればと考えている。

② 給食試食会

例年、食の大切さへの理解を深めるために、年に2度保護者を対象に行っている。食後には児童の給食の様子を参観してもらい、その後、栄養教諭による食育に関する講話を聞く。保護者はアレルギー対応や栄養のバランスなどについての知識を深めることができ、家庭での食生活の改善に意欲的に取り組もうとする姿が見られる。

今年度も、コロナ感染症拡大防止に配慮しながら実施する予定で募集をかけたところ、約30名の応募があった。特に1年の保護者が多く、子どもの食に関する意識の高さがうかがえた。with コロナの新しい生活のために家庭でできることについて話題にしたミニワークショップも行う予定だったが、市内感染者発生等の感染状況を考慮して直前に中止した。今後は実施を1回に減らし、そのかわりに、テーマや情宣の方法を工夫して、参加者を増やしていきたい。

(2) 学校とともに行う活動

① 下校指導

年に3回安全部により登下校の危険個所をチェックしながら児童と共に通学路を歩き、児童に注意を促している。今年度、1学期はできなかったのが、2学期以降一斉下校の日を実施する予定である。今後はその結果を地域とも共有し、安全マップを充実させていく。自治会や地域住民、各種団体や学校、保育園等で構成された地域力向上協議会には、すでに、昨年度までの情報を提供している。

また、例年、町内委員は当番を組み、自分の町内の児童の登校を見守る当番活動を行っている。本来なら年度初めに町内委員長が当番割

り当てを行うが、臨時休校で保護者同士が会う機会がなく、うまく当番割り当てができない町内があった。同じ町内に住んでいても、意思疎通ができず、希薄なつながりが露呈した。また、新入学児童の保護者から学校再開後の登下校についての不安の声をいくつも聞いた。そこで今年度は、入学説明会後のお迎え当番決めに町内委員が立ち会い、それぞれの地域において不安のある新入学家庭への相談役となってもらうことを予定している。町内委員の当番活動についても見直していきたい。

② 親子奉仕作業

8月に親子で協力しながらグラウンドの草抜きを行っている。野球部、サッカー部のメンバーやコーチも一緒に活動した後は、安全部で用意したアイスをみんなで食べて交流を深めている。例年、夏休み期間中にもかかわらず、多くの参加があることに学校と家庭との繋がりの深さを感じることができる。



【学年ごと作業区域を分けて草取り】

今年度はコロナ感染症・熱中症対策を十分に行ったうえで、安全安心に配慮し、方法を工夫しながら実施した。猛烈な暑さと感染拡大という困難な状況でも多くのPTA会員と児童が、学校のために参加できたことは喜ばしい。作業の終わ

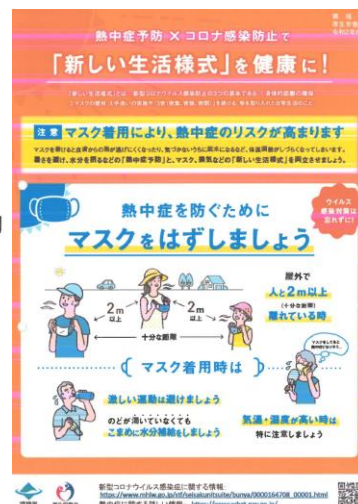
りには、「コロナ感染症×熱中症における対策」についてチラシを配布し、暑い中始まる2学期への心構えを知らせることができた。

熱中症の症状



本日は親子奉仕作業に参加いただきありがとうございます。

- ▶ コロナ対策のため受付で健康チェックをして飲み物を1本とって下さい。
- ▶ 受付は下のお子さんの学年で行ってください。
- ▶ 運動場の作業場所は学年で分けていますので、その場所で作業をはじめてください。
- ▶ 屋外は2m以上の距離を保ってマスクを外してください。



【コロナ感染症×熱中症の注意喚起】

③ リユース活動

例年、授業参観や懇談会などの保護者の来校時に、使わなくなったランドセルや体操服などの物品を集め、年度末に欲しい方に譲る活動

を行っている。物を大切に作る気持ちと同時に、皆のために貢献する気持ちが育まれる。学校で使用するものを引き継いで使用することで連帯感のようなものも生まれる。今年度は夏期休業中の個人懇談期間に回収できたので、入学説明会、学校公開日等に譲渡予定である。



【厚生部手作りのリユース箱】

(3) 地域とともに行う活動

① ふれあい屋台

毎年、連区の運動会にてふれあい屋台と称して、たません、フランクフルト、ねりあめ、かき氷などの屋台を出店している。子どもたちは楽しみにしており開店前から屋台に並ぶ。親子で買いに来たり友達同士で買いに来たりして大変賑わっている。地域との繋がりを大事にする伝統的なPTA活動となっている。地域の方とのふれあいの中で、学校や家庭では学べない、買い物のマナーやコミュニケーションスキルを学ぶことができる。

今後は、お客さんとして楽しむだけでなく、お店の運営を子どもたちに手伝わせ、体験活動の場にできないかと考えている。

② 祇園祭参加

地域では、江戸時代末期より、無病息災と五穀豊穰を願う『品野祇園祭』が開催されている。150回を迎える今年は、伝染病から地域を守る願いを込めて神事のみ執り行われたが、例年、児童はポスターを描き校庭で踊りを練習し、当日はみこしを担ぎ山車とともに練り歩く。

これからも、地域の歴史を知り郷土を愛する子どもを育てる役割を地域とともにPTAが担っていければと考えている。

4 おわりに

「不易と流行」という言葉があるが、PTA活動においても、時代の流れ、世の中の情勢に応じ変えていくべき部分と、何十年もの間、脈々と続く家庭と社会をつなぐ役割のどちらも大切にしていかなければいけない。いずれも根幹にあるのは「子どもたちの健やかな成長のため」という思いである。

今回の研究を通して、家庭が大切な教育基盤であり、家庭の集まりが地域となることを知ることができた。なによりこの研究活動により、私たちが「子どもとの関わり方」の大切さや家庭教育の重要性を改めて考えることができた。

本校PTAは、長きにわたり家庭・学校・地域の連携のもと、さまざまな活動を行ってきた。これからも、今の子どもたち、今の家庭に見合う家庭教育力の充実を図り、PTA活動を根本から見直し、子どもたちの安全を守り、今の時代を生きる力を育めるような活動に取り組んでいきたい。